

高年女子の高温・多湿時の衣服気候と快適性

○中里喜子*

古松弥生**

(*東京家政大, **十文字学園女短大)

目的：高年女子の快適な衣生活の構築をめざして、高温・多湿時の快適性について、若年女子との比較において検討した。

方法：63-67歳の高年女子4名と20-23歳の若年女子4名を、各1名ずつ2名1組にして、人工気候室の温・湿度を30℃・80%、28℃・45%、20℃・45%に変化させて実験を行った。着衣は各環境とも、綿70%、アクリル30%の衿なし・長袖の上衣と、ロングパンツ又はロングスカートの組み合わせとした。

血流（左足先）、皮膚温（左足先・足背・下腿・大腿・上腕・胸）、衣服最内層の温・湿度（胸骨剣状突起あたり）、舌下温、脈拍、血圧などを計測した。また、快適感・温冷感・乾湿感などの主観評価を行った。

結果：若年者と高年者を比較した主な結果は次の通りである。

①足先・足背・上腕部の皮膚温は、環境温・湿度が30℃・80%の場合、最も上昇し、若年者・高年者間に若年優位の有意差が認められた。②血流は、若年者の場合、環境温・湿度が30℃・80%で、最も多く、少ない高年者との間に、パンツ・スカートともに有意な差が認められた。③衣内温度は、環境温・湿度が30℃・80%の場合、パンツ・スカートともに若年者が高い傾向にある。28℃・45%の場合、パンツは若年者が高いが、スカートは高年者が高い④主観評価は、30℃・80%の場合、快適感は、他の環境温・湿度より不快に感じ、乾湿感は、体全体が、若年者は、スカート・パンツとも湿っていると申告し、高年者は、スカートの場合に湿りを申告している。